



ハタラクヒト

* ペディア20

<内田英治氏>

田中永子

はじめに

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだろうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りをしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。

行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

第20回は、株式会社 ウィズホーム 内田英治さんです。

会社名 株式会社 ウィズホーム

1級建築士事務所・一般建設業

住宅、店舗の新築設計・施工を中心にリフォーム工事や解体工事も受け賜ります。

刈谷市の実施する無料耐震診断員でもあり

200件を超える診断実績を誇り、耐震改修工事も受け賜ります。

会社のモットー

一軒一軒に真心込めて、安心して住める安全な家造りを心がけ

住み良い、心地の良い住宅を造る為に御施主様と共に考え最高の居住空間を造ります。

あなたと共にあなたの夢をかなえます！

内田英治氏



趣味 : ゴルフ・釣り・アウトドアBBQ・映画鑑賞(洋画)

連絡先 : 刈谷市宝町7丁目22番地

0566-22-1606

natural-wood@m9.dion.ne.jp

◆会長職を受けた経緯について

内田英治さん（以下敬称略：内田）： なにをどうすればいい？

田中永子（以下：田中）： 普通にしゃべってください（笑） インタビューとか、受け慣れているんじゃないんですか？

内田： お祭り関係はね。

田中： お祭り関係？ どんなことを聞かれるんですか？ どんな感じなんですか？

内田： 万燈祭り？

田中： うん。

内田： 歴史から、どんな雰囲気やととるかとか、若頭は祭りをどう盛り上げるのかとか。当時は、ぼくが幹事やととって、役員だったからすべての窓口だった。

田中： へえ。

内田： 行政だとか、いろんな団体からすべてぼくんとここに連絡が来る。

田中： その時、こういうことを聞いて下さいみたいなリクエストってするの？

内田： いや、しない。逆に、どういうこと聞くのって。

田中： うん。

内田： そうすると、向こうもこっちが答えられる質問しかしないから「あ、じゃあ、ぼくでいいですね」って、ぼくが対応する。

田中： そっか。会長はいつぐらいに商工会議所に入られたんですか？

内田： ぼくは、実は短い。

田中： え?? ほんとに？

内田： 正式には、平成20年の神野会長の時。

田中： じゃあ、まだそんなに。

内田： 5年。今度6年目。

田中： すごいですねえ。なんか、すごいベテランさんのイメージです。5年っていったらベテランさんかもしれないけど（笑）

内田： 入った年以外は、すぐにお役をいただいて。

田中： うん。

内田： とんとん拍子になってるから。そういう意味でいけば、青年部とはなんぞやって言われた時に、まあ知らないこともあるよね。そういう時は先輩に聞いたりだとかしてるけど。10年は遊べるなと青年部に入ったけど、もう半分前にはね、遊べんくなっちゃったからね。

田中： ふふふ。お役いただきちゃったから。お役いただきちゃうと、その役割を果たさないとって部分がありますもんね。

内田： そうそうそう。万燈保存会でもお役をいただく前は、言いたい放題、やりたい放題。

田中： やってたのね（笑）

内田： うん。同年会が集まってもそうだし。とにかく人がやっとなることで「もうちょっとこうした方がいいんじゃないの？」って意見をすぐ言うもんで「じゃあ、おまえがやれや」というふうになっちゃうでしょ？

田中： ふふふ。矢面に立っちゃったんですね（笑）

内田： で、そういう団体ばかりだから、「異業種が集まる会があるけど、どう？」って言われた時に。

田中： うん。

内田： その頃青年部もゴルフだったり、ソフトボールやったりしてたから。そこで遊べばいいやって思って入ったわけ。

田中： へええ。

内田： 入った当初の会長さんは神野さんで。

田中： そこで遊べばいいやってというのが、きっかけ？

内田： きっかけ。

田中： ふふふふ。お声をかけて下さったのは？

内田： 声かけてもらったのは、お祭り関係の人で、ぼくが若い衆をやとった頃に世話人をやとった『ひふみ』さんの杉本さん。今の筆頭副会長で「今やってるから、一緒にどう？」って。

田中： 意外だった。そんなに日が浅いなんて。

内田： 役だから。威張ってるからだよ（笑）

田中： ふふっ。役、全うしてますね（笑）

内田： ははははは。

田中： 実際どうですか？ 青年部は。入ってみて。

内田： 青年部さん？ やっぱり目的が遊ぶことだから。自分がマイク持ってしゃべる時間を与えられて言ったことが。

田中： うん。

内田： 新しく入ってくる人は、仕事仕事って言い過ぎだと。「仕事する前に、まず友達作らんといかんのじゃない？」っていうのをメッセージとして挨拶をしたんだけど。青年部には、仕事に繋げるために入ってくるのもわかるんだけど、ちょっといきすぎかなって。

田中： うん。

内田： だから自分自身は、仕事仕事って、ここの中では全然言ってないからね。遊ぶために入

って来とるからね。今年なんて、本当なにも出来ないよ、仕事。青年部同士の繋がりが無いところで、仕事やるわけじゃん、我々は。その仕事すら、なかなか出来ない。

田中： たしかに、日程とかお聞きするとタイトですよ。理事会とかも多いみたいだし。

内田： そうだね。会議も多いですけど、無駄な動きも多いんだよね（笑） まあ、時間の使い方が下手なもんだから。

田中： ん？ それは誰が？

内田： 自分が。なんでもかんでも。ダブルブッキングとか、平気だからね（笑）

田中： あははは。それって、どうして？

内田： いや、手帳を持って、スマホのスケジュール入れて、タブレット持って、カレンダーに書いてもダブルブッキングになっちゃう時がある。

田中： え?? なんで？

内田： わかんない（笑）

田中： なんか、そこ異次元じゃない？（笑）

内田： あはははは。で、どちらかを優先させて「こっち、断りづらいから」っていうのが出てくると、どっちかに必ず電話して、時間をずらしてもらおう。「その日、なんかあったよ」と言いながらも「帰ってから確認すればいいか」「とりあえずOKでいいよ」って。

田中： お。そこで確認しないんですね。

内田： 確認出来ないです。

田中： スマホに入っていないの？

内田： スマホに入ってる情報と違う。一番信用できるのは、手帳なの。その手帳を持ってない時のが多い。

田中： あはははは。だめじゃん。全然ダメ（笑）

内田： ダメ（笑）

田中： それはダメ出ししますよ（笑）

内田： あはははは。スマホにも、その場で入れられる時間があれば入れる。時間がなくてとりあえず口頭で約束して日にちだけ覚えとく。帰ってカレンダー見た時には書いてない。でも、手帳をみると書いてある（笑）どれかいつこにまとめればいいんだけど。

田中： うん。

内田： 不器用なので。心配性の不器用ほど性質（たち）のわるいやつはおらん。

田中： 自覚はあるんですね（笑）

内田： 自覚はある（笑）

田中： 困りませんか？ それって。

内田： いや、そんなに大きなことじゃないから。会議とかかぶれば、当然そっち優先するし。今年度だと、小学校の行事とかを青年部の行事とよくぶつけてくれたの。

田中： ぶ。

内田： 運動会だとか、音楽会とかね、全部かぶっちゃって。午前中は運動会出て、午後からは豊田のY E G出るとか。伊勢まで走るとかね、そんなんばっかだった。

田中： そこでなんとかしちゃってるから、「ま、いいか」って部分もあるかもしれないですね。

内田： うん。その時の大変さをね、すぐ忘れちゃう。「あー、今日もなんとかあったな」って終わっちゃうから。

田中： あははは。心配性で不器用で、忘れっぽいと。

内田： そう。そう。

田中： 三重苦じゃないですか（笑）

内田： あっはははは。何とかなってるから不思議なんだよな。毎年7月はね、青年部の活動も、祭りもあって、地域のこともあって。スケジュール帳見ると、大変なことになる。

田中： たしかに。

内田： 今回ののりちゃんの企画「ハタラクヒトペディア」おれ、働いてないからね。縁があったら最低限の働く人。見守ってる人だから。

田中： ぷ。ハタラクにペディアがついてますけど、人のペディアでもあるので。

内田： なるほどね。

田中： 動きや働き方って、その人の考え方とか透けてくると思うので、それが伝わる場になればいいなと思ってます。

内田： 青年部でも、ぼくが何屋か知らない人がいると思うよ。

..... つづく ^^

◆やんちゃしていた若い時代

田中： ふふ。そういったところも是非。同じ仕事でかぶってる人がいても「この人に頼みたい」という部分ってあるじゃないですか。それってやっぱり、人部分なのかなって思うんです。

内田： そうだね。もの買ってもらうより人間買ってもらえって。

田中： はい。そういった部分って、すごく大きい気がするんです。ご紹介する場合も、する人、される人双方に信頼が必要だと思いますし。

内田： ぼくが委員長を任された時にね、研修委員会と拡大委員会が合併して研修拡大委員会って始めた時があった。

田中： へえ。

内田： だけど、ぼくが「拡大はやめてください」って。「紹介はいくらでもするけども、ぼくの性格上、入れた子のことが心配になっちゃうから。面倒みちゃうんで。ぼくは遊びに入ったんですから」って。

田中： 宣言しちゃったんですね（笑）

内田： 当時の会長が、外してくれたんですけどね。せっかく青年部に入ってくれとるのに、異業種の集まりで、仕事でも繋がる可能性があるんならちゃんとしないとねっていうのが、自分の中にそういうのがあるもんだから外してもらって。

田中： はい。

内田： 信頼関係がなかったらね。そこで責任を取りたくないわけじゃないけど。

田中： ですね。結局、人と人だったりするんですよ。

内田： そうそう。自分が歩いて来た道は子供に「こういう風になるよ」って教えるのと一緒に、やっぱり安全な道を選ばせてあげたいじゃん。自分がこうやって、曲がりくねって歩いて来とるもんだでね。

田中： ふふ。

内田： まっすぐな道で安全な道は知らないけど、危ない方の道だったらね「そっち行くと、危ないんじゃないの」って忠告することが出来るわけじゃん。いらん苦労せんでもすむもんね、その方が。

田中： たしかに（笑） 会長、熱い感じですね。

内田： 熱い感じ？

田中： うん。

内田： 男くさい男になりたいなって思ってるから、そうなっちゃうんだね。

田中： 思ってるんですか？（笑）

内田： 女の子にモテなくていいと思ってる。基本的には。

田中： うん。

内田： 女の子にモテようとする時代は終わってるから（笑）

田中： ふふふふ。

内田： 男の子が惚れてくれるような。人を惹きつける能力はいろんなパターンがあると思うんだけど。

田中： うん。

内田： 飲みに行くぞ、食いに行くぞっておごってやればついてくるだろうし、たぶん一番簡単な方法だと思うんだよね。ただ人間性でついてくる人っていうのは、なかなかおらんもんだで。ぼくは幸か不幸か、おごってやるって出来る立場じゃないもんでね、仕事が下手だから。

田中： あははは。

内田： さいわいそっちの方向しか選べないのもあるけど（笑） 今はそれを信用してついてきてくれる子がおるということは、かろうじて成功しとるのかなって。

田中： その要素に、熱さ、男くさい男っていうのが入ってるんですね。

内田： 意識しとるのか、自然にそうなるから、そう見られるのか。結局お酒飲んどってもね、わいわいがやがやしとる所で飲むよりも、隣に座ってね、静かに居酒屋で話しながら飲みたいタイプなの。

田中： うん。

内田： だけど自分のことはアメリカ人って言ってるんだよ（笑）

田中： なんですか？ それ（笑）

内田： 家を大事にするとかね。アメリカ人のつもりでおったら、思いっきり日本の親父になつとるんだけど。

田中： 会長、族の総長みたいな感じがします。

内田： あ、元そうだよ。

田中： ほんとに？

内田： うん。

田中： 特攻服の背中に『夜露死苦』とか。

内田： そうそうそう。漢字4つ並べる、みたいな。ほんとにそういう人。

田中： おもしろいー（笑）

内田： ほんとにそういう人だったの。その頃に喜多山さんに出会ってる。喜多山さんとの出合いってというのは、（ペディアにも）書いてあったけど、喜多山さんがやってた喫茶店。

田中： うん！

内田： その駐車場にたむろしちゃって、座っちゃつとるのが、ぼくなの。

田中： あははは。良くない子じゃないですか。

内田： 良くない子。で、邪魔じゃん。邪魔だけど、喜多山さんが「邪魔だから店入ってこい」って、コーヒー飲ませてくれたりとか。ピラフはあ、おごってくれたかな、金払ったかなってどうだったかなって感じだったけど。

田中： ぶ。

内田： 「おまえの單車、乗らせてくれよ」ぐらいな。そこが初めての出会いだった。だから、喜多山さんとは知り合ってから長いんですよ。ぼくが一番横着い時に会ってるから。

田中： じゃあ、会長のビフォーアフター見てるってことですか（笑）

内田： 喜多山さんはね。

田中： そこら辺は、どうです？

内田： いやあ、全然。

田中： 黒歴史ではない感じ？

内田： うん。変わったつもりもない。だって評価って自分でしないでしょ？ 自分がそれなりにやってきたことに関して、周りがみるだけだから、それでいいんじゃない。

田中： うん。

内田： 中身的に成長してないわけじゃないから。元々そっちの方だったし、ダークサイドな方で、一生懸命「まじめになろうかな」と努力した結果、免許取ったり、資格とったりして、なんとか食っとるだけ。

田中： へえ。なんかきっかけとか、あったんですか？

内田： きっかけ？

田中： その……まじめになろうって。

内田： えっとねえ。ハタチまでは、もう、くしゃくしゃね。

田中： あはははは。

内田： ハタチからね25ぐらいまでもくしゃくしゃなの。だけど運送屋に入って大型免許取って、トラックの運転手で長距離走って。その時、女の子の親に「トラックの運転手なんかに、嫁にやれるか」って言われたのが一番こたえたかな。

田中： あー。

内田： その頃ね、死にかけたことがあるんですよ。サーフィンやってて。元暴走族だったのにサーフィンとかスキーに行ってる。

田中： なんか健康的じゃないですか。

内田： そうそう。だから変わっとるんだわ。

田中： なんか極端ですね（笑） 清々しいスポーツで、さわやか野郎みたいな。

内田： まあ、さわやか野郎の振りしてたからね。悪かった時でも、剣道やってて段も持っているし。部活は部活でちゃんとやって。中学校で学ランになると学ランの子になる。胴着着ると剣道部の子なの。メリハリ。剣道は、ほんとキャプテンもやってて、刈谷市内でも結構有名な剣士だったの。

田中： へええ。

内田： で、卒業してからもやってて。でも学ラン姿の子たちはそっちがわに。その子たちが有名になってくると、ぼくは胴着を着なくなるわけじゃんね、ぼくはそこのトップだから。ということは、どんどん悪くなって行っちゃったってということだね。

田中： うん。そっちで登りつめちゃった（笑）

内田： そうそう。違う方の高みを見ちゃったもんだから。

田中： あははは。

内田： で、いっぺん波にもまれて死にかけた時に『走馬灯』ってあるじゃん。ババババーってスライド写真が。何枚かは数えられなかったけど、その頃の彼女から当然お母ちゃんの顔だとかお兄ちゃんの顔だとかが出てきて。その時にね、「死んじゃまずいな」と思って。

田中： うん。その時にね。

内田： うん。その時に初めて思って。「死ぬ前になんかやらにゃいかんだろう」と27歳でトラック降りて。名古屋の栄近辺で、クラブ、飲み屋さんの雇われ社長をやったの。

田中： へえ。

内田： ものすごいたくさん給料もらってて。従業員が20何人いたから、夜の3時に終わってそこから鮎屋に連れてったりして、5時6時まで名古屋で遊んで。で、もらう金っていうのもすぐなくなっちゃう。とにかくその世界もダークなの、夜だから。

田中： うん。

内田： その仕事を3年ぐらいやつとる時に「陽の当たる所で商売がしたいな」って、思い始めたの。ここでいくら金をもらっても、みんなが起きとる日中に寝てるわけじゃん。そのちょっと前は陽の当たる所でサーフィンとか健全な事しとったのに、「お金のためにこんなことしとっちゃいかんわ」って。結局お金もらってもためにならないじゃん。だったら、「陽のあたる所でひとりでやりたい」って勉強し出したの。

田中： どんな勉強したんですか？

内田： あのね、クラブで使ってた女の子のひとりが、アメリカのオレゴン州の子で。「なんかいい商売ないかね」って片言の英語と、片言の日本語で話していて。その頃『輸入住宅』が流行っていて、その子に「輸入住宅やってる知り合いがいるから、1回見に行こうよ」って言われて。27歳の時に、オレゴンにひとりで行ってしまった。

田中： すごい。

内田： 中学校卒業して、高校中退した子が英会話なんか出来るわけがない。

田中： でも、行ってしまった。すごいな。

内田： 当時こんな大きな電卓に、翻訳機、それと辞書持って。ほんとひとりぼっちでオレゴンのポートランド行って。最初何日いたのかなあ。10日か2週間ぐらい。向こうに行っているいろんな会社紹介してもらって「供給先になりたい」「アメリカの建材を日本に流したい」という話をして。ひとりじゃ無理だから、日本の工務店をつかまえて。

田中： それは現地で？

内田： うん。アメリカでそういうパイプだけ作って来て、日本に帰って知り合いの工務店の社長さんに相談したの。「じゃあ、やろうか」ってなったんだけど、その工務店さんがすぐに潰れてしまって。

田中： うん。

内田： それで違うパートナーを探して。2年ぐらいやってたのかな。年に2回ぐらいは向こうに飛んで。5年ぐらい輸入住宅にしがみついていたんだけど、結局売り先の日本に帰って来た時に、工務店の社長さんたちに「こういうものをアメリカから持ってくる事が出来るけどやりませんか。買いませんか」と話すんだけど、建設用語、専門用語が飛びかう。相手は建築士さん。「これは商売にならん。いくらいいもの持ってたとしても」「俺もプロにならないかん」ということで、二級建築士を目指した。二級建築士っていうのは、ある程度の実績があって受ける資格があるからって。それで受けたら、受かっちゃったのよ。

田中： ふふふ。勉強したんでしょ。

内田： 勉強したよ。学校に通ってね。半年ぐらい通って勉強した。で、1回で受かっちゃって。そしたら、今度は輸入住宅の方が薄れてきちゃって。

田中： ん??

内田： ぼくの意識的に……。建築士になれば自分で家が建てられるし、店舗の改装とかもやってくうちに、普通にご飯は食べれるようになったの。

田中： ええ。

内田： で、一級を受けるつもりは全然なかったの、はじめは。

田中： うん。

内田： 一級建築士になろうなんて思いもしなかったんだけど、ただ4年間二級建築士で過ごすと一級の受験資格がうまれちゃうの。その間に「宅建でもとろうか」って、二級の翌年に受けたら、これも受かっちゃった。

田中： すごい。

内田： 「これで不動産屋さんも、やれるじゃん」ってなって。店舗改装だとか、住宅リフォームとかをやりながら4年間過ごしたら「試験受けますよ」って連絡が来て。

田中： ふふふ。

内田： 「ダメもとで、やってみるか」って。それが結婚した年だったかな。

田中： うん。

内田： 前の年だったかな。で、やってみたら学科が受かったのよ。

田中： 試験は、学科と実技が分かれてるんですか？

内田： そう。学科試験が1次試験であって、2次試験が実技。2級の時のイメージで、学科だけ受ければ、実技の製図を描くのは楽勝だと思っていた。

田中： うん。

内田： 学科受かった時に、有頂天になっちゃって、もう一級建築士になったつもりだった。1回学科が受かると製図2回チャンスがあるんですよ。で、1年目だめだったと。

田中： ほお。

内田： 2年目の製図もだめだった。2年目落ちると、また最初からいちからやり直しだからまた学科受けなきゃダメ。これ、やらなかったら、たぶん、今のぼくはない。

田中： うん。

内田： 2回落ちた段階でやめる人がほとんど。もう1回学科からだから。あの苦労をもう1回やらならん。こんな分厚い法令集を何回も開きながら、それをまたやらないかん。

田中： うん。

内田： 超短期のやつで学校申し込んで、やったら、受かった。

田中： ふふふふ。

内田： 1点差で。後1点足りなかったら、足切りでだめだった。1年目にやった時よりも全然低い点数だったんだけど、その時の受験生の点数がみんな低かったから、平均点が下がってきて拾われた。

田中： よかったねえ。

内田： 3年目の製図試験、意気揚々と「これでどうだ？」って臨んだら、残念ながらダメでした。

田中： そうなんですか？

内田： 4年目、最後。「これで受からなかったら、もうやめ」って決めて、嫁さんと相談して最後にやったら、受かった。

田中： すごいね。なんかドラマだね。

内田： 超うれしくて。もう4回やってるでしょ？ 製図にもランクがあって、1から4まで。1が合格。2・3・4はすべて失格なの。

田中： 1しかないわけね。

内田： そう。合格は1しかない。で、4は決定的に名前の書き忘れだとか、描き上げられなかったとか未完成。3は「残念だったね」みたいな。2は、ものすごい惜しいのね。

田中： うん。

内田： 全部2だったの。落ちてる3枚ともが、ランク2で。

田中： それは、くやしいね。

内田： めっちゃ、くやしくて。4年目に受かった時に、もう、なんとも言えない感じで。

田中： うん。

内田： 受験番号、自分で見に行って、泣いた。

田中： うん！ でもわかる気がするー。

内田： 名古屋の昭和ビルでね。そこに張り出されるの、番号と名前が。新聞にも出るんだよ。インターネットにも出るんだけど、それが待っとれんくって、名古屋まで見に行っちゃった。

田中： うん。

内田： で、名前があった時に、思いっきり泣けてね、嫁さんに電話したけど、しゃべれなかった。

田中： 拍手

内田： 今でも泣けそう。

田中： それは、すごいねえ。

内田： 試験は10月で、毎年受かったつもりでいるから家族でグァムに遊びに行ってる。

田中： 決め日なんだ。

内田： そうそう。「終わった。合格前祝でグァムに遊びに行く」っていうのが、もう毎年の事だったんだけど、4年目は行けなかったの。

田中： うん。

内田： 仕事が暇だったのか、行く気にならんかったのか。子供も2人いたし、行かなかったのね。そしたら、受かった。

田中： よかったねえ。

内田： うれしかったねえ……今も思い起こせばうれしくてしょうがないんだけど。だけど「資格とったから、なんだ」ってことなんだよね、今度は。その資格をうまく活かせるか、活かさないか。

田中： うん。

内田： でも一級建築士を取っていなければ、ぼくが造ってた家はないわけだし。一番最初につくったのは福井県だったんだけど。福井、岡崎、安城、刈谷も何軒かあるんだけど、そういう家も造れんかったらうしね。

田中： うん。

内田： それも営業しない。どうですかって、しない。

田中： 営業なしで？

内田： 営業しない。

田中： どんな感じなんですか？

内田： だから、知り合いの知り合いが頼んでくるとか。

田中： あー、口コミってやつですね。

内田： そう。暇な建築士がいるよ、みたいな。

田中： あはははは。

内田： 「（よそで）こんだけの値段って言われちゃった」「じゃあいいよ。〇円でやるから」ような仕事ばかりしてるから。だから仕事は下手なのね。

田中： ん？ それはどういう面で？

内田： 利益を出せない。

田中： 利益を生み出すためのお仕事が、お得意じゃない？

内田： そう。えっとね、算盤を弾くのが、得意じゃない。

田中： ふふふふ。

内田： 人間の気持ちの部分で、それが金額になってっちゃうから。「これを出すと高いって言われるかな」って思うと、どんどん下がってっちゃう。仕事は手を抜いとるわけじゃないし。

田中： うん。

内田： 「おかしいな。何軒もやっとするのに、なんでこんなにお金がないのかな？」って思うのも、たまにある（笑）

田中： あはははは。

内田： でも、その日食べればいいやってぐらいにしか考えてないから、仕事の方に関しては。仕事があるだけでいいやって。

田中： うん。

内田： だけどない時は、全然ないよ。今年なんか、やりたくてもやれないし。

田中： 会長職も来ちゃってて、お忙しいでしょうし。

内田： そう。約束が出来ないでしょ？ いつまでにして決めると、そういう時に限ってものすごいスケジュールになっちゃう。たかが10何枚かの資料つくるのに、出来ないとかね。

田中： ええ。

内田： まあ、寝ずにやればいいんだろうけど、寝るの好きだから。

田中： ぷ。平均睡眠時間はどれくらいなんですか？

内田： 意外とね、寝てるんですよ。6時間は寝てる。もっと忙しそうに見えるけど、夜中の2時に帰ってくることは稀で、日にちを越える前には。すぐに帰りたい！

田中： うーん。またぎたくない。

内田： またぎたくない。もうこんな時間っていうのが11時半。12時までに帰りたい。寝たいもん。

田中： 奥さんに会いたいとかじゃ、なくて？（笑）

内田： そんなわけないじゃなくて、寝たい（笑）

田中： あはははは。

内田： 神経質だから、車の中とかで寝れないし。

田中： 繊細なんですね。

内田： 繊細なのかな。

田中： （加藤）大志朗さんは、9時に寝るって言ってましたよ。

内田： あの子健康的だもん。走ったり。小学校の幼馴染なの。

田中： へえ。

内田： 一緒にサッカーとかしてたもん。小学校は間違いなく一緒。厄年会も彼が会長で、ぼくが副会長。

田中： 結構地元で、知った方とか、そういう繋がりの方ってたくさんいらっしゃるんでしょうね。

内田： そりゃもう、普通に過ごしてたって、知っとる人たくさんいるだろうけども。やっぱりダークな方のお育ちが多いからね。有名ですよ（笑）

田中： あははは。

内田： 他市の人から見ると、刈谷では有名らしくて。自分では、ちょっと横着だったただけだよぐらいなんだけど。

田中： 笑

内田： だって、自分で言うのと嘘みたいでしょ。ちょっと横着だっただけで。先生とのコミュニケーションも、いまだにとれてるし。

田中： うん。

内田： 先生もその頃、ぼくが悪くても信用してくれとったしね。そういう信用してくれる人た

ちのことを裏切っちゃいかんしってというのが、ずっと生きてるなかで。

田中： うん。古き良きワルって感じがします（笑）

内田： ふふふふ。

田中： 仁義なき戦い系の、昔の任侠とか。義理堅い感じの。

内田： よくね、ちょっと知り合った方に「義理人情に厚くて、優しい人だね」って言われる。

田中： うん。

内田： 本物になってないから、よくわかんないけどね。

田中： ふふふ。そっち行っちゃってたら、今はない感じがしますね（笑）

．．．．． つづく ^^

◆会長職は我慢するのも役目

内田： うん。そう思う。中学の先生が卒業する時に「あんたは真面目に東大目指したら、東大行くだらう。その代り、悪い方を目指したら、たぶん〇〇組さんを上回るようなものになるんじゃないの」だから「真剣に目指したら、やれるんだよ」っていうことを頂いて、そうなんだなって。

田中： ええ。

内田： そんな感じで、みんながわかっとなるみたいだけどね。

田中： うん。

内田： 今年青年部で会長やらしてもらうにあたって、「みんなの前で笑わないかん」だとかね言われるんだけど、ぼくのキャラ的に「ぼくは、怖いんです」「普通に怖いんだから、いいんじゃないの？」って。

田中： 笑

内田： そのキャラを変えてまでやる会長だったら、やれないし。でも、自分のことの前に会員の事をやらないかんもんだで、やっぱり我慢する部分もあって。

田中： 我慢、されてるんですね。

内田： 我慢してる。もっと怒りたいこと、いっぱいあるもん。

田中： 怒るのを我慢してる（笑）

内田： あはははは。

田中： どんなこと、怒りたくなっちゃうの？（笑）

内田： 順序立ててやってくれないと、嫌なの。組織だから、情報の流れもきれいに流れてないところとかね。飛ばしちゃったり、そういうことをするのが嫌いなの。

田中： 筋が通ってないってやつね。

内田： うん。そういうことされるのがすごく嫌いで。言うだけのやつも嫌いで。今年になってからは一回しか爆発してないけど。

田中： あははは。

内田： 周りがすごいフォローしてくれるの。まわりのよく知ってる子たちが、「ぼくがここまで言うと、こうなっちゃうから」って。把握しておいてくれる人たちが左右におると、すごくやりやすい。後は我慢すりゃいいだけ。

田中： うん。

内田： 会長職は大変なことだけど、サポートしっかりしてくれてたり、周りの人たちが気を遣ってくれるもんだで。気を遣わせる会長じゃいかんと思うんだけどね、わかりやすいもんだでね、性格が。

田中： 役割に専念させてくれるって、すごく楽ですよ。

内田： そうそう。だからね、自分でやっとなというよりも、やらせていただいたとるって気持ちの方が、全然強い。生きとること自体、そうだもん。

田中： 走馬灯も経験してるしね。

内田： そうそう。生かしていただいたとる。

田中： うん。

内田： あれ、まじに走馬灯だよ。ボードのパワーコードをぎゅって持ったの。そしたら指を脱臼したんだけど2本の指が引っかかったもんでボードにつかまれて。

田中： うん。

内田： のりちゃん、洗濯機の中に入ったことないでしょ？

田中： ない（笑） 私も一回波にのみ込まれたことがあります。

内田： めちゃ怖いよね。

田中： はい。ちょうどお盆の頃で、「お盆は波が高くなるから入っちゃダメ」って言われてたんだけど。その時のまれて、それこそ足が着くぐらいの浅瀬だったのに、立てないんですよ。

内田： 回っちゃうもん。

田中： あれはほんとに怖かった。

内田： のりちゃん、サーフィンはやったことはある？

田中： ないです。

内田： サーフィンは波に乗るスポーツじゃん。大きすぎる波はくぐるんだわ。

田中： あー、崩れる波の中をボードで。

内田： そうそう。くぐって、その波をやりすごして浮いてくる。その時、波をやり越したなって、ふと見た時に目の前にまた同じような波が来てて、慌てて潜った時にもまれちゃったの。で、も1回浮いたら今度は横から波が来て、もうあかんわって。3回目にもまれた時に必死にボードにしがみついていたけど、その時頭の中で、絵がばばばばーっと。どうやって上がったのかは覚えてないけど、浜辺に上がって横になった時に、よかったあって思った。あの時は、死んじゃうかなって思った。

田中： そういう時って、脳の情報処理能力が3倍以上になるらしいですよ。動いている物が静止画のように見えるらしいです。交通事故とかでも。

内田： あ、スローモーションに見えるやつ。

田中： そうそう。私も自転車に乗ってて、側溝に落ちたことがあって。地面が近づいてくる感じとか、景色が上下反転するのが凄くゆっくり見えてたのが不思議で。そしたら以前インタビューに出て下さったカメラマンの和田さんが、脳の処理能力の話を教えて下さって。

内田： なるほどね。スローモーションで見るのは、ぼく何度も経験してる。

田中： 何度も？（笑）

内田： でも、死ぬかなはなかった。バイクでぶつかっていった時もスローモーションで見てて、ボンネットに正座しとったとかね。

田中： あっははは。正座（笑）

内田： 正座（笑） そういうことか。ほんとにコマ送りで。

田中： 私が死ぬ思いをしたのは、お産の時ですね。出血がひどくて意識が遠のいていって。先生の「血が止まらない」とかいう声だとか、まわりの慌ただしくなってる様子とかもわかって、でも頭の中は凄く冷静で「妊産婦の死亡原因の第1位は出血死だったなー」って思いながら、指先がすうっと冷たく、体温が低くなっていくのがわかるんですよね。慌てた声とか聞きながら、「あー、こうやって死んでいくんだ、人って」って。

内田： ぼくも同じ経験ある。7年ぐらい前手術したことがあって、手術後にトイレ行ったらトイレが血まみれになるぐらい。はじめは大丈夫かなって思ったからほかっといたけど、2回目に行ったら、また血まみれになったもんで、インターホン押して看護婦さんが慌てて飛んできて、トイレの状況見たらすぐにストレッチャーに乗せられて緊急手術。

その時に血圧がね42/20。血圧の基本的な数値しか知らないから、看護婦さんがバイタルチェックで「42/20」って言ってた時に「それ血圧の話？」「そうだよ」「それって、ヤバんじゃないの？」「大丈夫。この病院で死んだ人いないから」って話しながらやっとなって、まぶしいから目をつむったの。そしたらものすごい勢いで「内田さん、内田さん、目えつぶっちゃダメ！」って。もう全身痺れて、力が入らなくて、冷や汗だけがダーっと出て。

田中： うん。

内田： あれはヤバかったんだって後で思った。

田中： ありますよね。

内田： で、出血して貧血になると、なかなか戻らないでしょ。しばらく貧血状態で。

田中： 戻らないですね。

内田： 切れた、腫れたは見た目で見えるじゃん。でも、胃が痛いとか、そういうのは見てわからないから、ビビリだもんで、ぼくすぐ病院行くの。病院が好きなわけじゃないけど。今でも血液検査とか体調管理については、先輩がやっとなる病院にかかって月1回は必ず行って。

田中： すばらしい。

内田： 特に会長職受けた時に。なんかあっちゃいかんもんで。

田中： ええ。

内田： ぼく、選挙出たの、知ってる？

田中： 知らないです。いつですか？

内田： 前回の市議会議員選に出て。その時に神経質だから寝れなくなっちゃった。その時から健康管理をしてもらって、いまだに薬もらって、チェック受けながら。ほんと「寝れない」「食べれない」っていうのはつらい。

田中： すごいストレスたまるって言いますよね。

内田： ストレスでしたねえ。不安感もあるし、孤独感もあるし。あれは大変ですわ。

田中： いろいろ経験されてますけど。

内田： そういうことをやりたい、というか、元々自分の中の基本ベースだもんで。「おもしろいこと、やればいいじゃん」って周りから言うから、やったの。そしたら10票足りんかったもんで。

田中： またあ、2だったんですね。

内田： ふふふふ。うまい！ 4年かかって成ったんだから、次はなれるね。

田中： うん。そう。

内田： 後1年半。よくね、こういう会長職受けると「そのためだろう」って言われるんだけど、そうじゃないんだよね。

田中： うん。

内田： 実際これで敵も作ってるもん。いろんな人がいて。聞き流しながらやっとなるけど、この会を守るためにやらんといかんと思ってやっとなるけど、この会に関しては、1票も増えてないかなって、評価換算すると。でも結局地域のためにやるんだもんね。

田中： はい。この間いろいろお話ししてた時に出てきた話が、今、敵を作るという話じゃないけど、耳触りのいいものや、わかりやすいものが受け入れられやすいんだけど。実は、自分はこうじゃないかと言うことの方が大事じゃないかって話をしてたんです。

周りばかり気にして何も言えない空気が蔓延しがちだけど、そうではなく「これについては、こう思う」「ここは譲れない」ということは、そこに物差しというか、基準を差し出すことで、大事なことなんじゃないのって思います。

内田： うん。

田中： スタジオジブリの宮崎さんと鈴木さんの映画の感想と一緒に話し下されたんですけど、自分を持って、それを主張するということは、世の中に物差しを作り出していくことで、それを怖れないということをお話しされていて。

内田： 今の理事会でも「それ間違っていないの？」っていうこととか、「正しいことを討論するのに時間とかは関係ない、理事は正しく会社が運営されるために選出されてるという事を自覚しろ」って。

田中： うん。どうしてそれをやるのかって理解出来てないと指示を待つてしまう……。

内田： 指示されたことも、受け取り方がそれぞれ違ってね。ゆとり世代っていうのかな。

田中： ゆとりといっても、時間はあるんだけど薄いというか。短期間で成果を求めるものしか、受けていない。だから自分の仕事だと思えば質問が出たりするんでしょうけど。「いつまでに」「これについての資料は」とか。でも自分の仕事だと思ってないから、出てこない。

内田： 責任感の欠如というのもあるよね。

田中： うん。そこに自分の都合のいい解釈が入ってくるんですよ。「～だろう」とか。

内田： そうというのが9割方じゃないの、今。だからいろいろ言うやつの方が「おかしいんじゃないの？」ってなる。自分の中では「間違ったこと言っていないと思うんだけどな」ってあるんだけど。見る人が見ればわかるけど。

田中： そうです。出る杭は打たれるって言われますけど。この間研修の時にも話したんですけど、「ちょっと出た杭は打たれちゃうから、出過ぎちゃって下さい」って。

内田： ははは。

田中： 話を聞いていると、それぞれ手を取り合ってみんな協力してって思ってるんだけど、誰もいい出さない。その言いだしっぺになろうとしなくて結局動かない。いいことだったら必ず結果が出るし、人もついてくるから、最初に自分がその旗印になっちゃうことが大事ですって……。

内田： どっかで同じ様な話聞いたことがある。「ぼくがやってることを見て、賛同してくれる人がおればいい。ぼくは自分のやれることだけ、やってるんです」って。旗を振るのが大事。

田中： うん。旗があって、そこが陣地だってわかればいいんじゃないかと。

内田： 杭もとことん出ちゃえば、相手も諦めちゃう。「まあ、しょうがないわなあ」って。

田中： で、会長職ですね（笑）

内田： そう（笑） 会長職になっちゃったねえ。

田中： ふふふ。

内田： いろいろあったけどね。

田中： ほんと、いろいろあると思います。

..... つづく ^^

◆人に喜んでもらえることが幸せ

内田： 今いるメンバーに関しては「内田がやってよかった」って言われたいし。背伸びは出来ないけど、身の丈に合ったことで精いっぱいやるっていうことで。仕事も常に同じ考え方もんでね。「この仕事やったら、いくら儲かる」という勘定からは入らない。

田中： うん。

内田： 先週1週間終わって、見積もりを何件か出して、昨日たまたま嫁さんと「今週1週間で55000円稼いだ」とかね。そういうセコイ話しかしとらんもんで。嫁さんにもここにこ笑って「よかったねえ」っていうし（笑） 一級建築士が1週間5万でよろこんどっちゃんよね（笑）

田中： ふふふふ。

内田： ほんとは今オフだけど、ぼくが通ってた『日建学院』建築士を目指す人たちの学校で今その講師をやらせてもらってて。ぼくが3回も落ちたことも知ってって、ぼくがピックアップされた時に、校長になんて言われたのかということ「あなたは落ち方をよく知っている」と。

田中： ぷ。

内田： 「受かり方もよく知ってるから、それを是非生徒に教えてやって下さい」って。

田中： あはははは。

内田： 毎年4月と8月のコースがあって、生徒によく言うのは。当然自分の経験も話すけど、「あなたたちは日建学院にとってはお客さんだけど、ぼくにとってはただの生徒だ」と。

田中： うん。

内田： 「口も悪いし、ボロクソ言うけど合格できるように努力するから、みんなも言うこと聞いて下さい。もし嫌だったら隣の学校行って下さい。去年は合格率NO2の実績があって、ぼくも責任持ってやるから」って。ぼくは違ったんだけど、試験って受かると自分のおかげなんですよ。で、すべると先生のせいなんですよ。そういう受け取り方をする子が多いので、合格してもありがとうって言うてくる子が少ない。

田中： うん。

内田： 今まで5年ぐらい先生やってて、100人近くの生徒を合格させてきて。その中でも5人もいないです。わざわざ事務局の方に「内田先生にありがとうございましたって言っといてください」って電話してくる子とかは。

だけど落ちた子が再受講する時に「内田の教室に行きたい」って逆指名を受けて岡崎校に行かされたり、「名古屋校に戻ってこい」だとか。

田中： ええ。

内田： それは給料少ないけど、もの凄く幸せ。求められて教える。ぼくがそうだったからね。「この先生の教え方なら、ぼくは落ちてもいいかな」「もう一回教えてほしい」って。だからそう言われるようになったのは、凄く幸せ。

田中： ですね。お金じゃない気がします。

内田： それで食っていけたら、全然いいんだけどね。でも額は言いたくないぐらいのものしか、もらえないから。でも人の為になることだし。

田中： ええ。

内田： とにかく人に喜んでもらえることが一番で。それはお金に換算できることと、出来んことがあって。地域活動、ボランティアとか青年部もそうだし。時々、みんなの笑顔とか言うけど、その程度だよ、不器用な人が考えるのは。のりちゃん、なんの三重苦だったっけ？（笑）

田中： ん？ えっと、心配性で不器用で、忘れっぽいだったかな。

内田： ははは。ま、楽しんで生きようとは思ってないもんだでね。

田中： うん。負荷がないと、生きてる甲斐がないみたいな。そう思ってる部分って、ないです??

内田： うん。あのね.....簡単に言うと、借金があるから仕事出来るみたいな感じ?

田中： うん。

内田： なんもなくて、ぼーとしとるのが非常に嫌い。やらされるのも好きじゃないけど、なに

かやっとりたい。負荷ってそういうこと。

田中： うん。やらないといけないこと。

内田： そうそう。なにか責任を持たされてないと。とにかく3月終わるまでは、青年部の事が心配でしょうがないもんで。

田中： ぶ。心配なんですか？（笑）

内田： 心配。

田中： なにが心配なんですか？

内田： のりちゃんの卒業式が無事こなせるかどうか（笑）

田中： あっははは。

内田： 会長職で一番つらいのはね。

田中： うん。

内田： 会長によって違うと思うんだけど、委員長たちに「任せる」と言った以上は任せないといけない。だから委員会に出て「ああしてほしい。こうしてほしい」が言えないってことが一番つらい。

田中： うーん。ひょっとしたら会長の中にある絵と、各委員長の持つてる絵とのギャップが、つらいのかしら。

内田： あー。のりちゃんが今年所属しとる研修委員会さん。お任せしてるけど、あれはいい方に転がったで、よかった。

田中： はい。凄く楽しいですよ（笑）

内田： 今年のスローガン『結束』という、ひとりでも多くの友達を作ってほしいってことであれば、あの委員長は正解でした。ああいうふうに上手く回ってくれるところは任せられるんだけど。「やれるだろう」って過度な期待をされてた委員長さんが、実はだめだったとかね。そうになると責任はぼくなんだけど、口は出せないからね。それがつらい。

田中： うん。

内田： 自分でやると簡単なんだけど。言えないのがすごく歯がゆい。どうしても叱咤激励になっちゃう。それで評判落とすし。

田中： ふふふ。その評判って、誰の？

内田： 自分の評判。その会を背負った以上、叩かれる時は叩かれればいいし。陰で何言われてもいいけどね、自分を支えてくれる子たちを守らないかん。で、無事3月が来ることを祈っとる。

田中： うーん。繊細ですね。

内田： 意外と繊細なの。

田中： ね。豪胆な部分もおありだけど、それと同じぐらい繊細ですね。

内田： 繊細っていうとかわいいね（笑）

田中： うん。凄く細やかな。

内田： いろいろ任せてるけど、自分がやるのが一番簡単だなんていうのがある。ほんとはトップに立つ人間じゃないかもしれん。NO2でその人の為に一生懸命やっていく方が。保存会の幹事でも、実質NO2だからね。

田中： 楽ですか？そこは。

内田： いやいや。一番やりがいがある。黙って座ってるのは性に合わない。しゃべれる立場、作れる立場っていうのが一番楽で一番自分が好きなとこ。今のポジションだと黙って座っとらないかんというのが、自分の性格上つらい。「よきにはからえ」ってことは出来ん。

田中： ふふふ。

内田： 会長さまじゃない、一兵卒となって自分も働きたいというのが一番だけど、みんなは「黙れ、黙れ」だからね。でもそれは忠告として受け取って。会長がひとことしゃべったら、そこで、会長意向っていうのが発生するでしょ。そしたらみんな集まってやってる意味がないので

、「好きなようにやってちょうだいって言った以上はお任せするしかない。

田中： ふうん。

内田： で、その歯がゆいのがあったから、登山したり。

田中： うん？

内田： 登山なんか趣味じゃないんだよ。

田中： 修行ですか。

内田： 修行。

田中： ふふふ。

内田： たかが3時間半の山で、4回～5回行けば景色もわかるし「帰っちゃおうかな」「でもみんなも頑張ってるから上まで行こうかな」とか3時間半の中でいろんなこと考えながら。

田中： うん。

内田： 足首痛めて痛いけど、今しか行けないなとか。嫁さんに「よくそれだけ突発的に動けるね」って言われるけど、自分でもそう思う。「海が呼んでる。釣り行ってくる」とか。

田中： 釣りもご趣味だって。

内田： あれ、聞えない？ 海が呼んでる（笑）

田中： 誰も呼んでないよ（笑）

内田： 嫁さんも、最近どうも空気が読めるようになって来たみたいで、ゴルフクラブを磨きだすと「あ、芝が呼んどる？」とか（笑）

田中： ふふふ。

内田： ヘッドライトの電池を気にし出したり、さすがに竿を伸ばしたりはしないけど「針はあるかな？」とか、釣り道具を気にし始めると「どうした？ 海が呼んでる？」って。その辺は自

由にしてくれるのがね。

田中： うん。

内田： 嫁さんがわかってくれるようになって、だいぶ精神的に楽になった。自由にやらしてくれるから嬉しい。サッカーのコーチもやったり。嫁さんの顔は別に見なくていいけど、家に帰りたい（笑）

田中： ふふふ。いいですね。そういう場がちゃんとあるのは。

内田： 凄く息抜きが出来るわけじゃないけど、家に帰っても子供がガチャガチャやってうるさいし、「やかましい」とはしょっちゅう言うんだけど、それはそれで、おらんよりいいかなって。

田中： そう。淡々と過ごすよりは、わーわーやってるんだけど、後で振り返った時に「あれでよかったんだな」みたいな部分って、多かったですからね。

内田： うん。「仕事でこの先どうしていきたいか」なんてビジョンはまるでわかんないんだけどね。生活出来ればいいやぐらいとしか。

田中： そこら辺は、手放していらっしゃるんですね。

内田： うん？

田中： 青年部の方は「なんとか3月まで無事に行ってくれば」みたいに頭の中にゴールを描いてる感じなんだけど。お仕事については、画を浮かべてないというか。

内田： ないない。来たやつを丁寧に片づけていく。それをいっこずつ重ねていけば今まで何とかなってきたように「なるんじゃないの？」って。そこで道を増やして多角経営するだとか。不動産はやりたいんだけど、今はその時期じゃないし。これだけ儲かるからって勘定は全然してない。

田中： うん。

内田： 自社ビルが建つようなイメージは全然持ってない。最近うちの子たちもうちの商売がわかってきてるみたいで、家を建てる人、あるいは大工さんみたいに。

田中： ふふふ。大工さん（笑）

内田： 子供には「設計図ってあるでしょ？ あれがないと家が建たなくて、その図を描く人なんだよ」って。設計図ってお客さんと話し合ったビジョンが図になるわけでしょ。その図がなければ家は建たない。家を建てるための礎になるわけでしょ。その価値をこの子たちにわかってほしいな、みたいなものはあるけど。

田中： うん。

内田： 消費税の関係もあって営業かけるところもないくらい決まる所は決まっちゃってるから。今更ぼくがやることないし、「慌ててももしょうがないな」「来るものを丁寧にやっていけばいい」って。

田中： うん。

内田： 講演家業……ってというのはやりたいなって夢はあるじゃんね。

田中： うん。

内田： 話すの好きだから。何人かに誰かに言われたことがあって。「今の中学校の子どもたちに、これまでのぼくの人生を話すとか、本を書くとかをやったらどう？」って。それ言われた時に「ああ、やりたいな。そういうの、おもしろいな」ってあったんだけど。

田中： ええ。

内田： 式典とかでいろいろ講演とか聞くでしょ、著名人たちの。ああいうことをやれたらいいなあって。適任かどうかはわからんけど。

田中： うん。

内田： とにかくゆっくり考えとる時間もないし、とにかく馬車馬のごとくなんかやっとなんと食べていけないから（笑）

田中： ふふふ。3月に任期が終わられたら、またなにか違ったものが見えてくるかもしれませんね。

内田： うん。そのままバタバタになっちゃうかもしれんけどね。

田中： お休みする時間も大切ですからね。

内田： 5回の副会長より1回の会長だとかね。やっぱり何倍も苦しいよね。

田中： やっぱりその立場に立って見ないと見えない景色ってあると思います。

内田： 前任者が派手な人だったからね。

田中： それぞれタイプ違いますもんね。

内田： うん。ほんとに違う（笑）

田中： 喜多山さんはすごく算盤がお上手な感じがします。

内田： ぼく、武骨者な感じがするでしょ。不器用っぽいでしょ？

田中： うーん。不器用っていうより、義理人情とか譲れないものがたくさんあるから、角がいっぱいあるんだろうなって感じがしますね。

内田： うん。最近ようやく「金平糖ぐらいになったかな」って、同級生に言われる。

田中： うん。

内田： 角に触る人は、いっぱいおるよね。

田中： うん。一番効率がいい、空気抵抗がないっていうのは、つるってしてたり。作業効率的には摩擦のないのが進みやすかったりあるとは思いますが。今だんだん変わって来てるような気がしますね。

内田： なかなかいないタイプでしょ？

田中： そうですね。

内田： こんな下手な生き方してるやつは、なかなかおらん。自ら揉め事に入っていっちゃうよな。

田中： ふふふ。私も結構めんどくさいやつなんで（笑）

内田： はははは。

田中： 組織の中において「あー、おれん」ってなって今みたいになっちゃってるんで。

内田： しがらみっていうのも嫌いだしね、ぼく。

田中： そうですね。私も自分のケツを自分で拭けないやつは嫌いなんです。

内田： そうそう、のりちゃん、来年OBサロンってあるんで、総会とか納会とかで。遊びに来て下さい。

田中： えー、お邪魔って言われちゃいます。

内田： はははは、全然（笑）OB会に入ってください。

田中： 「1年しかいないのにOB会かよ」って言われちゃう（笑）

内田： はははは。青年部に入ってこれで5～6年になるけど、かなり人の裏とかも冷静に見えるようになったから。元々人をすぐ信用しちゃうような、言葉尻だけで動いちゃって自分が損するタイプだったんだけど、ちょっと慎重になれるようになってきた。

田中： ふふふふふ。いろいろ団体、組織とか見てると、なんのためにその組織があって、今見なきゃいけないことはなんなのか……って視点を持ってる人がほんと少ない感じがします。それが見えていれば、自ずと行動って決まってくる。

内田： うん。

．．．．． つづく ^^

◆忠告のありがたさ

田中： 会が発展する、あるいはみんなが気持ちよく活動するには……とか。極端な言い方をすれば、その目的を達成するためにはいろんなやり方をしてもいい気がしているんだけど。だけどそこにいろんな視点を持ってる人が集まっているわけで……。

内田： 今年度はスローガン『結束』で大きくまとまって。それは、次の20周年を盛大にやりたい。だから仲間を作らなくちゃだめだ。そのために出席回数、人数を増やすんだということを目的にして最終的には結束すること。その結束するためにどういう手段を持ってくるか。

田中： ええ。会社とかでも組織が大きくなってくると、そこら辺の方向性がを保つのが難しくなる。だから自分の立場からどうするかっていう視点を持つことが大切なのかなって思います。

内田： そうだね。

田中： 会長も今までのご経験から、この役割はこういったもの……というような、本みたいなものをご自分の中にお持ちでらっしゃって。

内田： 頑固系の本ね（笑）

田中： そうね（笑）

内田： コミック系ではない、頑固系のそういう本は持っていると思う。こうあるべきだっていう会長像もあって。それが人間によって、コミック系だとか辞書系の人もおって。

田中： ですね。

内田： ぼくは頑固系だから。

田中： 太い毛筆とかで書かれてそう（笑）

内田： あはははは。そういう見方するの、おもしろいね！（笑）

田中： 笑

内田： 中の本棚にね。確かにある（笑） でも、みんなそれ持ちあわせてるよね。

田中： そうなんです。みんな持ちあわせて、自分が持ってる本を、みんなも持ってると思ってるんです。

内田： うん。

田中： だからそういう毛筆で書かれた本を見た時に、自分の本棚にないから、それが本だとわからないというか。自分の持ってる漫画がすべてだと思ってるから、それを出せばわかると思ってるんだけど、そうじゃないから……。

内田： 1本出された物差しも、凄く大きいものだったり、小さいものだったり。

田中： そこで、組織としての視点を持てれば……。毛筆の本を読むために辞書持ってくるとか、漫画になにが描いてあるのか教えてもらおうとしたり。相互理解するためになにが必要かとか。それがないと進めないのがわかれば、理解しようと思う。でもそういう共通の意識を持っていないと、歩み寄りがないし。

内田： 最近、誰その取扱説明書って言うけど。

田中： うん。それも結局マニュアルで。作った人にしか使えないかなと。

内田： そうだね。昔っからワルだった頃の、自分の中に持ってる毛筆体の本を広げて「こうなんだよ」というやり方が、下手だというわけなんだね。

田中： あはははは。その良さがわかる人はいいんですよ。たぶんそういう人は、開かなくてもわかってる。きっと必要なのは、そうじゃない人に開いてる本を見てもらうことなのかなって。その上で「これはなんですか？」って言われた時にその人のわかる言葉で説明をしてあげる。そこなんですよね、きっと。

内田： 短気だからね。「この字が読めんのか？」ってなる。

田中： あっはははは。

内田： しゃべってる時にみんなを笑わしたりはしてるけど、実はそういう風なので。その切り替えが出来ない子たちには、大変な人間なんだよね。面倒くさいと思うよ。みんな大変だな（笑）

田中： ふふふ。でも、私、摩擦のない人よりは断然好きですよ。

内田： ほんとう！？ こういうタイプの方が？

田中： うん。

内田： ありがとうございます（笑）

田中： さっきも言ったんですけど、自分のケツを自分で拭けない人は嫌いなんです。で、どういったものであれ、その人の個性、独自性が感じられる人が好きです。そういうものが際立っている人の方が、私はおもしろくて好きですね。

内田： おもしろいけど、苦しいんですよ。

田中： うん。またそれを見てるのも、好きです（笑）

内田： あっははははは。地道に考えるようにはしてるんだけどね。突拍子のないことは言わないように、みんなを驚かさないように。

田中： かなりセーブしてますね。

内田： かなりセーブしとるかなあ。守るものが増えると慎重にならざるを得んよね。

田中： あー。

内田： 青年部の事ばかりで申し訳ないけど、青年部の会長になったら、一生青年部の会長なんだよね。「元」が付こうが、「前」が付こうが。

今会員が120人弱。なにかあったら、その人たち全員を傷つけることになっちゃう。これからの人生においても。だからいろんな役が付くたびに、自分が小さくなってるのかなって気が、若干してる。

田中： うん。

内田： で、「元」だったらいいのかなって思う反面、現役への影響を考えると、襟を正していないといけないのかなっていうのもあるし。

田中： 面倒くさくないですか？（笑）

内田： 面倒くさい（笑） でも終わってから、初めて評価もらうし。これから毎年毎年評価をもらってくような気がするもんね。

田中： 評価って、どうしても人からのものになりがちだけど、自分軸の中で決めちゃうっていうのも楽になるんじゃないかなって思いますね。

内田： ここまでいったら合格点……みたいな。

田中： うん。テストと違うんで。

内田： うん。どこが合格点かわからんね。

田中： うん。評価って……今日OKだけど明日はNGみたいにクルクル変わるみたいなものですよね。だからそこに重きをおいてしまうと、常にそれに、外側に引っ張られがちですよ。

内田： あ、そうそう。良く見られたいとかに繋がってっちゃうかもしれないけど。ぼくはぼくのやる事しか出来ないからねっていうことだったり。

田中： そう。

内田： よく見られるためになんかするんじゃなく。こうやってしゃべるもんだから、体裁を気にしてるって言われるのかな。体裁を気にする次元じゃないもんね。昔のことを思えば。

田中： うん。

内田： 今普通になってるだけで、あ、まだ普通じゃないかな（笑）

田中： とりあえず、昔は昔で（笑） でも、それでいい気がする。ひよっとしたら、そこでおっしゃるみたいに、自分で自分をしがらませてる、みたいな部分があるのかもしれないなって感じます。

内田： うん。いろんな人と話す機会があって、いろんなことを横から言われて、凄く楽になる時がある。「自分のことをもう少しやってもらっていいよ」とかね。自分の中にずーっと考えてることがあって、そこを、ガス抜きというか、すっと抜いてくれる人がいたりね。

田中： うん。

内田： そうなの、凄くありがたいし。反対の事言われても、言われることがありがたい。忠告をされるだけいいじゃないか。ほったらかされたら、そこで終りだと思ってるからね。人の言うことはそれぞれバラバラだもんで。

田中： ね。

内田： その都度、気持ちのいい事だけ受け取っちゃいかんだろうし、腹の立つことだけ受け取ってもね。

田中： うん。そこら辺が（笑）

内田： あのね、以前はね、ガツンって立ってたやつが、最近はふらーっと立てるようになった。

田中： やわらかい感じですね。

内田： 聞き捨てならんことを言われると、カチンってなるけどね。その機会も減ってきたんで。おとなしくなったかな。

田中： うん。ひょっとしたら会長職されて、そこが一番頂いた部分かもしれませんね。

内田： かもしれないね。聞き流すことが出来る言葉が増えてきたというか。

田中： 今までだと、ボールが飛んできたら正面で取らんといかんと思ってたけど、「これ、とりあえず、スルーでいいか」みたいな。

内田： うん。前までは横から言っとるやつに対しても、わざわざ正面に回って「来い！」って言うタイプだった。それが先輩だろうと、誰であろうと。今、そういうことが出来るようになった。

会長職やって、今これやっちゃったらこうなる……って後のことが考えられるようになった。陰では説教じじいって言われとるけど（笑）

田中： ほんとう？（笑） 今、昔みたいに説教してくれる人、いないですからね。もうちょっと大丈夫ですか？

内田： 大丈夫、大丈夫。

..... つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

内田さんにもインタビュー後、おつきあいいただきました。

まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

<いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

.....

つづきは内田さんのおこたえです ^^

内田： （質問表） いっぱいあるじゃん。

田中： 全部は聞きませんよ。夜になっちゃう（笑）
小さい頃はどんなお子さんでしたか。

内田： どんなものの頃？

田中： そうだなあ、今パッと浮かんだのは？

内田： あのね、幼稚園の頃でいい？

田中： うん。いいよ。

内田： 「廊下で立ってなさい」って言われた時に。

田中： 幼稚園で「廊下に立ってなさい」??（笑）

内田： あったんだわ。幼稚園は亀城公園のそばにあって、立ってなさいって言われてるのに抜け出して亀城公園に遊びに行って、先生たちが総動員で探し回って。普通に亀城公園で穴掘って遊んだり、基地作ったりしとったね。

田中： フリーな子でしたね。

内田： うん。共働きでね。子たくさん貧乏の一番末っ子だったもんだから。

田中： 何人兄弟なんですか？

内田： 姉ちゃん、姉ちゃん、兄ちゃん、兄ちゃん、兄ちゃん、自分だから6人兄弟。

田中： 凄いですね。

内田： 今では珍しいね。当時でも6人兄弟はうち入れて3軒ぐらいしかなかった。だから名簿でも四男って書かれるのも2人ぐらいしかいなかった。

田中： へえ。

内田： だから相手してくれるのは、ほとんどお兄ちゃん、お姉ちゃん。そんなに楽しい思い出

ってというのはあんまりないじゃんね、子供の頃って。先生たちを大騒ぎさせたっていうのも、記憶にあるんじゃないかって後日談で「そういう子だったらしいよ」って。

田中： ふふふ。

内田： 今は集団下校があるけど、当時は珍しくて。家は共働きだったから隣のおばちゃんが同級生の女の子と一緒に連れて行かれたんだけど、それが嫌で嫌でしょうがなかった。これは記憶ね。

田中： 女の子と一緒に歩くのが嫌だったの？

内田： うーん。女の子と一緒に歩くのが嫌だったのか、自分のお母ちゃんがないのが嫌だったのか、わかんないけど.....嫌でしょうがなくて、ひとりでどんどん歩いて帰っちゃう子だった。それが恥ずかしいのだけは覚えている。その頃はまだ刈谷市駅前に住んでいて、その商店街の人たちがみんな知ってって、ひとりで歩いてても平気だったの。

田中： へえ。

内田： 後、よくおもちゃ屋さんの前で座り込んだ。

田中： あら、駄々こねてたんですか？

内田： うん。家が貧乏だということをね、あんまり認識してなくて。今思うと。1時間も2時間も平気で泣いてた。それが市駅前の商店街のお店で。ぼく、あそこにお母さんがいっぱいいるの。

田中： うん。昔ってね、地域の人たちで。

内田： うん。今でもおもちゃ屋さんに顔出してしゃべったりね。周りの人たちが育ててくれたようなもので。

田中： やんちゃさんな感じで（笑） 自分の子供とかだとステップを踏んで育ててく部分ってある気がするんですけど、だけどお兄ちゃん、お姉ちゃんって自分がどう育てられたって覚えてないから、扱いがラフとか、親と全然違うというか。兄弟が多い末っ子ちゃんってスタート地点が違う。

内田： うん。かなり雑だと思うよ。

田中： 下の子が遅しくなるって、そこら辺なのかなって。

内田： だと思うよ。自分の子供を子育て中だけど、たぶんそうだと思う。お兄ちゃんぐらい出来て当たり前だ、みたいな感じで。ぼく、お母ちゃんに世話になった覚えがあんまりない。一番世話してくれたのは2番目の姉ちゃんかなって記憶。ぼく、しょっちゅう泣いとしたよ。

田中： うん。

内田： 小学校2年生の時、近所の子たちと公園で遊ぶよね、ぼくらの頃は。隣にお寺のある公園で、本堂の屋根に登ってって近所のおじさんにどえらい怒られたり。うちが今2年生だから、それ思うと、あかんぞって。でもそれをやっと思ったね。

田中： 当事者は関係ないもんね。

内田： まわりのおじちゃん、おばちゃんに言わせると、「かわいいけどやんちゃだったな」って。ほんとくそガキ。

田中： あははは。

今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか。

内田： ……試験か、選挙かな。

田中： 試験か、選挙。

内田： 試験かな。ちょっと甘く見とった。

田中： それで、やめちゃう人が多い中で、踏みとどまったのは、なんですか？

内田： 女房と子供。女房がおって一番上の子供が生まれて、その子がいなかったら、やらなかったかもしれん。2回目は。

田中： そう。

内田： 1回目の時はチャンスだからやるでしょ。費用は50万ぐらいかかるけど、一個の物件を入れたらペイ出来るから。でも2回目に行こうと思ったのは、子供ですね。子供がいなかったら、やってない。

田中： それは？ どういう違いがあるの？ お子さんに投げ出さないってところを見せたかったってことなのか。生活にそんなに関わる事でもないですよ。

内田： うん。一級とったからどれだけ儲かるって計算もなにもないし。とりあえずトライすること、「ここであきらめちゃ、ダメだ」って。それは上のお姉ちゃんに見せたかったのかな。

田中： うん。

内田： 「この時にパパは寒い中バイクで学校通って……」っていう話がいずれ出来たらいいなって。そこに合格というものがあればいいなって。

田中： ええ。

内田： それしかなかったのかも。どうしても一級建築士になりたいとか、そんなんじゃない。

田中： うん。お仕事の的にどうしても取らないといけないというのではなく、落ちてやめられる人が多いなかで費用をかけて、挑戦したのって、凄く強いものがある感じですね。

内田： 子供に見せたいのはあるし。負けを認めたくないっていうのが、それが大きいのかな。

田中： あー。そっか。そこでやめてたら、試験失敗したで終わっちゃう。

内田： うん。やりかけたら、やっぱりやらなきゃっていうのがあって。お願いしたもんね。「もう1回だけやらしてください」って。

田中： そこかもしれないですね。負けず嫌いで。

内田： 負けず嫌いだしね。ずーっと2だったから。後一步。たぶんそれだ。結果子供に見せられるものが出来た。

田中： そっか。結構頭の中にお子さんの画が浮かんでくる感じですね。

内田： なんか努力する時に？

田中： うん。

内田： 山でもそうだけど、途中で帰っちゃいかんなど。青年部のみんなの顔も、当然家族の顔も浮かぶしね。途中で諦めちゃうってことが、あんまり好きじゃないんだね、元々。だから性格ですね。

..... つづく ^^

田中： そこが熱さなんじゃないですか。

では、3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか。

内田： 3つ……リアルすぎて嫌なんだけど、やっぱり市議さんになりたいね。市議さんになって、周りのために働いてお給料をもらえるのは、もの凄く幸せだと思うね。それに専念すりゃいいんだもんね。一番はそこだね。後、お姉ちゃんがまともな人と結婚してほしい。

田中： だいぶ先じゃないですか？（笑）

内田： だいぶ先だけど、10歳。

田中： え？ 10歳～（笑）

内田： みんなが元気で、死ぬまでみんなが普通におってくればいいかな。お金もほしいのもあるけど使い方によってはね、あってもなくても同じだから。使い方を知らない人が持ちっちゃんかと思うし。

田中： まわりものですしね。

内田： うん。3つあると困るね。一個だけだったら、長生きさせて下さいとかね。

田中： だから胆です。3つ（笑）

内田： ふふふ。

田中： 人と会う時、つきあう時、その人のどんなところを見えていますか。

内田： うん？

田中： 会って今後つきあいとか始まって行くときとか、その人のどんな部分を見ているのかなって。

内田： 気になるのは、周りに対する気遣い。煙草を吸う人だったら人前で平気で煙草を吸う人かどうか。ぼく煙草をやめて4年ぐらいになるんだけど、煙草を吸う時でも、出来るだけ人前で吸わないようにするとか。

田中： うん。

内田： 周りをどれだけ気にかけてるか、周りにどれだけの影響を及ぼすかということに気を遣えるかどうかってところは気になるね。

田中： 気遣い。

内田： うん。敢えて見るところじゃないけど、見えちゃうところ。簡単に言うと気を遣えるかどうかかな。ぼくに対してじゃなくて。

田中： 周りへの……ということなんですね。

内田： うん。そういう人としゃべっていると、ぼくも楽だしね。気を遣わなくていいから。

田中： そっか。その人が遣えない人だったら、会長が気を遣わないといけないから。

内田： うん。

田中： 気配りの人ですね。

内田： うん。そうは見られんけどね、あんまり。煙草は特にね、最近よく目が行っちゃう。歩き煙草とか。

田中： うん。

人として、これは譲れないっしょ?? っていうのがあるとしたら、何ですか。

内田： ふふ。人に対して?

田中： うん。きっと人にそれを求めるってことは、自分の中で律してる部分じゃないかなって思うので。

内田： 何かの言葉でさ、「強くなきゃ生きていけないけど、優しくなければ生きてく資格がない」って。それかなあ。

田中： うん。

内田： 何かで聞いて、ずっとそれが頭の中に残ってから。思ってるけど、出来んけどね。周りにきついことも言うし。言うことも優しさかもしれんけど。

田中： 強さってというのは手段であって、優しく生きるってというのが目的、目標なのかなって。

内田： うん。生きていく資格がないってというのは。

田中： 強く生きるという事が目的ではなくて。

内田： うん。優しく生きていくための手段が、強くなきゃ生きていけない。「人として、あかんやろ」って、最近周りに多すぎるからね。わかんないこと言うやつが。

田中： ふふふふ。

内田： 芯のないのは一番いかんね。言ったことに責任とらんやつね。それが一番許せんね。都合のいい事ばっかいうやつ。

田中： そういう人はなんとなくわかりますね。接しててね。
では、「攻め」と「守り」自分はどちらだと思いますか。

内田： 攻めか守りか言われたら、攻めとるね。さっきも言ったけど、守るものが多くなってくると。

田中： ふふふ。会長職は守りな感じですね。

内田： ちょっと守ってる。だから、自分で嫌なんだろうね。

田中： うーん。

内田： 居心地が悪いような気がするんだろうね。ガンガンガンガンもの言うのがほんとの自分だと思っただけど、それが言えない状況におるってというのが窮屈でしようがないのかね。間違いなく攻めだと思っただと思うね。

田中： うん。ひょっとしてリストバンドみたいなものかもしれませんね。おもり。

内田： うん？

田中： 私の友人がマラソンが好きで、東京の皇居の周りとか走ってるらしいんですけど。私が東京行って、仲間で集まった時、リストバンドつけたまま遊びに来たんです。椅子に座っておも

むろに外し始めて「あー、軽くなった」って（笑）

内田： 笑

田中： それをつけてることで、知らないうちに筋力がついてる、みたいなこと言ってて。

内田： だと、いいねー。さすが、のりちゃん、仕事だで、おもしろいこと言うね。わかりやすい。

田中： ありがとうございます（笑）

内田：ほんと、そうだといいね。

田中： でも絶対そうだと思いますよ。

内田： 手枷足枷だと動きがとれんけど、ウエイトをつけてるつもりでね。

田中： うん。まあ、いろいろあって友人と話してた時に「のりちゃんね、葛藤を持ってられるっていうのは、体力がある証拠なんだよ」って。

内田： うん。

田中： 「持てない人は、端っから持たないから。持てるってことは力持ちなんだから、持てるだけ持てばいいよ」なんてことも言うんです（笑）

内田： なるほどね。下ろすと軽くなって力がついとる。今度の4月にそう思えるかどうか。

田中： うん。それが脱げないものだと思ってるると大変なんだけど、それは「自分で外せるもの」「自分でつけたもの」って思えば、自分で外せるじゃないですか。

内田： だね。今はとりあえず外せないけども。

田中： うん。期間限定で。

内田： そうね。

..... つづく ^^

田中： 全く何の制約もないとしたら、何をしますか。

内田： なにしてもいいよってことだよ。なにをするかな？ なにするかな？ ただ寝とっただけもったいないよね。街頭演説は、しないな（笑）

田中： 笑

内田： なにする？ あ、今浮かんできたのは、ごちゃごちゃしとる所に行って、こうなんだって街頭演説みたいな。「言っていることと、いかんこと」みたいなのも、しないなって。

田中： え?? しないの？ なにも浮かばない感じ？

内田： うん。

田中： じゃあ宿題で（笑）

内田： うん。制約のない世界におったことがないから（笑）

田中： うん。

落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか。

内田： あー。ある。えっとね、まずは釣りに行く。

田中： うーん。

内田： 考えたいときと、静かにしといてほしいとき。要は落ちこんどるときは、真っ暗な中の赤い電球を見てる。

田中： 真っ暗の中の赤い電球？

内田： 夜釣りのね、真っ暗な中の赤い電球を。浮きを見てるのが好き。魚が釣れようが釣れまいがどうでもいい。

田中： その浮きを見ていると。

内田： ぼーっと見ていると、ただそれに集中しとればいいわけでしょ。そうするとまわりの鬱陶しい声とかも自然に薄くなっていく。

田中： ふうん。

内田： そのぼーっとしてる時間だけが2時間3時間あると、落ち着く。なんか、代わりの答えが見つかるとかじゃないけど、落ち着く。

田中： うん。

内田： なにか大きな行事がある時とか、大事なことで挨拶をせないかんという時って緊張するじゃない。そういう時も釣りに行く。よくみんなにね、「普通にしゃべってるから、緊張しないでしょ」って言われるけど、緊張するのね。

田中： うん。

内田： 緊張する時と嫌なことがあった時、やっぱり真っ暗な中の赤い電球を見に行く。

田中： へえ。

内田： あとね、映画見る。映画好き。ただ映画館行けないから、今DVDだけど。

田中： どんなものが？

内田： 見るのは洋画ばかり。ヤクザものは見ないよ（笑）

田中： ふふふ。私だって見ませんよ（笑）

内田： エディ・マーフィーとか好きなの。刑事ものとか。アバターとかファンタジー系の洋画も見るし。字幕じゃないと寝ちゃうけど（笑）

田中： うん（笑）

内田： 洋画を見るのと、釣りだね。ゴルフは行かない。イライラしてる時とかは特に。逆に楽じゃない時じゃないとダメ。

田中： ですね。

何をしている時が一番楽しいと感じますか。

内田： 今はね、幼馴染とお酒を飲んでるのが一番楽しい。

田中： うん。

内田： 作るものもなく、着ることもなく、昔の馬鹿な横着いときの話をしてゲラゲラ笑っとる。そんな時間が一番好き。

田中： 今一番欲しいものは何ですか。

内田： （小さい声で）オートバイ（笑）

田中： え？ なに？

内田： オートバイ。バイクがほしい（笑）

田中： バイク？ へえ、大きいやつ？

内田： 大きいやつ。

田中： ハーレーぐらいの？

内田： ハーレーじゃなくてもいいけどねえ。大きいバイク、乗りたいねえ。

田中： なんかぴったりじゃないですか（笑）

内田： うん（笑） 何年かおきに乗りたくなるのよ。

田中： 昔は乗ってらしたんですよね。

内田： 昔は当然、もう……。かみなり族じゃないよ、暴走族だよ。

田中： どういう違いがあるんですか？

内田： かみなり族は、昔の人（笑） 普通に免許持ってるから、ずっと乗れるじゃない。学校に通ってる時も、当時バイクで行くと歩道に止められたのよ。そうすると学校の目の前まで行って止められる。で、バイク何年か乗って、いらなくなったら引き取ってもらって。

田中： うん。

内田： 今またバイクが欲しくなってる時期ね。

田中： 今の時期ね。なんか解放感みたいなものかもしれないですね。

内田： うん。ひとりでいいから、どっかバーツと行きたい。よく突発的に行ったりしたんで。今バイク欲しいねえ。

田中： いいですね。乗ればいいじゃないですか。

内田： 乗れるかな（笑）

田中： 乗れますよ。自転車と一緒にしょ？

内田： それは絶対乗れる、技はね（笑） ただ、どこに置こうかとか、単車に乗ってる姿を見て、息子たちに、単車ほしって言われたくないな……とか。

田中： あー。そこもまた、いろいろ着てる感じが（笑） 昔みたいに「ほしい、よし行くぞ」みたいな簡単に行けない感じですね。

内田： そう。お姉ちゃんは後ろに乗ったことがあるの。小さい時にしがみついて。息子たちは乗ったことがないから、でも、バイクあれば乗りたいって言うだろうし、乗せちゃったら、危ないって言えないし。バイクっていうのは、車と違って身体ひとつでしょう。下手すると危ないよね。

田中： まあ、ご自分もそうやってきたわけじゃないですか。

内田： そうだね。

田中： うん。思うんですけど、子供も心配は心配なんですけど。子供は子供の人生なんです。

内田： そうだね。

田中： どっかで割り切りは必要ですよ。

内田： 離れないかんね（笑）

..... つづく ^^

田中： ふふふ。可愛いのはわかります。

今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい。

内田： 中学校の時の恩師。

田中： うん。

内田：が.....説教と言うか、卒業してから話すようになって言った「英治、おまえはそのままでええ」ってひとことが、大きい。

田中： へえ。

内田： その意味はわからないけど、「とにかくおまえはそのまま行けばいい」と言われたことで、そのままスタイルを崩さないように、ずっと来た。

田中： うん。

内田： その恩師が、こうした今のぼくにしたことは、間違いない。それぐらいしかない。恩師の言葉。

田中： それは大きいですね。

内田： 後、お祭りの役を、ぼくを信じて任せてくれた会長かな。その役をやったことはでかいかな。40前半の人間が、200何十年続いとるお祭りの監事だからね。やっぱ、それを任せてくれたことと、卒業してから先生が言ったひとことだね。

田中： うん。大きいですね。

内田： 高校やめた後だったから。人生に迷ってる時だね、自分が。その時に「そのままでもいい」って。

田中： 行動で褒めてくれることってあたりするけど、「これしたから、えらい」みたいなのだ。

内田： うん。

田中： そのメッセージは、存在全体へのOKメッセージだと思うんですね。

内田： うん。「おまえは信じたものをそのままやればいい。大丈夫だ」というふうに受け取った。いまだに会っても、先生は俺のこと「なんにも心配はしてない」って。ちょっと淋しいけど「ほんと、このままだな」って。

田中： 笑

内田： 後日談で言うと、だいぶ後で恩師が同級生に「あいつは大器晩成型かもしれんけど、絶対デカイやつだからいい」って言ってたっていうのを聞いて。「やっぱりそういうことだったんだな」って。人に言われて、細かいことは矯正しながらだけど、本筋は絶対変える気はない。それが一番人生の中で大きいこと。

田中： そうですね。

内田： たかだか17～8とか、そんな頃の話で。

田中： ね。高校やめられたぐらいっていえば、すごく揺らいでる、思春期真っ盛りで。

内田： 親父が14の時に死んでるからね。

田中： それはお若くして。

内田： うん。その時に支えてくれたのが先生だし。まわりに、近所にお母さんもだけど、親父もたくさんいる。

田中：ほんと、地域で育てられたんですね。

内田： そうそう。そうそう。みんなが育ててくれた。ちゃんとは育てないけどね（笑）それで一旦遠回りしとるけど、その遠回りがなかったら今はないです。

田中： うん。まわり道ってだいたい妙な気がするんです。ぶつかるとかね。

内田： よく考えるのは、みんなが高校3年間、大学の4年間行って、ぼくは7年間遊んでるの。彼らは勉強してるの。ぼく一級取るのに、二級から数えると8年かかっているの。要は勉強する時間自体は一緒なのよ。

田中： ふふふふ。

内田： ただ専門的な事しか勉強してないんだけどね。遊ぶ時間が早かったか、遅かったかの違いで、今ほんとはフラットになっとらないかんはずなんだけど、さぼってた分だけ、いまだに勉強しないかんわね、広い意味で。でも「そっちからこっちの方に来てるから、今のおまえがあるんだ」って。

田中： そう。人生って、無駄がないなって、思います。

内田： こっちにおったやつが一級建築士取ったから、おもしろいんだって。

田中： うん。学校の先生も、紆余曲折あって社会を見て先生になった人の方が、おもしろいんじゃない？……みたいな。

内田： そうそう。その活かせるものとしたら、やってきた人生そのままを活かすしかないから。これをしゃべって仕事にできたらいいなっていうのもある。

田中： いろんな人生があって、選択だと思っていて。これしかないと思うと道って一本しかないんだけど、「これもある、あ、あっちにも」って思えると、実は道はいくらでもあって。

内田： 選べる道をつくって行く。

田中： そう。それを自分で作ってもいいし、なにを選んでもいいんだって思えた時、ほっとすると思うんです。それがひとつしかないとYESかNOしかないから、究極の選択になってつらいんですよね。

内田： 強引にそっちの道を引きずってくと、力もいるしね。

田中： うん。今って効率とか、最短で結果を出すことを求められてるから、結構二者択一ばかりのような気がするんです。だから選択すること自体がすごく重い。そんなことないんだけど、ひとつの選択が、下手したら生きるか死ぬかに繋がっちゃうぐらいな。

内田： うん。

田中： そうじゃなくて、いろんな人生があって「こういうことがあったけど、ちゃんと生きてるよ」「こういうことがあったから、今こういう考えになったんだ」って。子供にも「こういう大人でもいいんだ」みたいな、いろんな大人のモデルケースを見せることとか。

内田： うん。子供に選択肢を語れないのはダメだから、「自分がこうやった結果、こうなっちゃいました」「こうすれば、こうなるはず」っていうのを教えられるようにならんといかんというのがあって。

田中： うん。

内田： 高校受験に関しても、勉強が出来るという学校も選べる。「あなたはどっちを選ぶの？」って子供にはそう教えてる。あまりに自分には選択肢がなかったから。自分がしてきた苦勞を、子供にも、知ってる仲間たちにもさせたくないし。選択肢はいっぱいあった方がいい。それも作れるようになったほうがいいよって。

田中： うん。選択肢はいっぱいあって、自分で作ることも出来るし。ただ自分で選んだものなので、その尻は自分で拭けと。それが出来れば、いいかなって。

内田： うん。

田中： こちらが選択肢として提供したとしても、先方には、選ばないという選択もあって。それを受け入れることも、しないといけないなって思います。

今死んでも悔いはありませんか。

内田： まだある。疲れたし、楽になりたいという気持ちはあるけども、今死んじゃったら。遺すものを遺してない。

田中： うん。

内田： 自分がいなくなることによって迷惑かけることが多いから。まだ死ねないな。最低でもプラスマイナスゼロにしてからいかないと。遺されたものが、いなくなってもちゃんと食っていけるようにしてから。子供をつくった以上育てるのは親の責任だから、不慮の事故であったとしてもね。

田中： うん。

世界に向けて演説をしたら、何を一番伝えたいですか。

内田： はははは。世界に向けて（笑）へええ。たぶん.....戦争しちやいかん、平和だとか当たり前にあるかもしれんけど.....もったいない精神かな

田中： もったいない精神？

内田： アフリカの方で、『もったいない』って日本語がね。あれをもっと広げたいかな。今、日本自体が贅沢だから。平和とかは、みんな言いそうだけど。

田中： 笑

世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか。

内田： 難しい質問、するね。

田中： 「これ、なくしてやろうか」みたいな。

内田： あ、おれは、あれ。えっと、差別？

田中： 差別？ うん.....をなくして。

内田： なくして。差別、格差。

田中： 不平等。

内田： そうそう。

田中： 今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか。

内田： 難しいね。信用。今一番足りないものかな。

田中： 足りないものなんですか？

内田： 足りないと思うよ。徐々に徐々に作られてきとると思うけど、まだ満額ではいただけないね。もっと人に信用してもらわなきゃダメだね。

田中： 満額。なんか、すごく漠然とする感じですね。

内田： うん。うん。満額の数もわかんないしね。

田中： ね。

内田： だけどひとりでも多くの人に信用してもらわないかん。今の質問なんだった？

田中： え～、一番大切に思っているもので、信用……。

内田： 信用。家族って答えたいところだけど。信用があればその先に繋がるものあるしね。自分が育たないかんね。

田中： 今、『会長』ではしゃべってないですね。

内田： 今普通にしゃべってる。

田中： ね。会長職で、しゃべってないよね。

内田： じゃない。もいっこの方でしゃべってる。

田中： ね（笑） 今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったら教えてください。

内田： やっぱり、受け取り方の違い。考え方の違い……いろんな考え方をする人がおるだとか、質問のされ方によって、こんなに考えさせられるんだっていうのもあるし。

田中： ふふふ。

内田： 普段いかに、まだまだぼーっとして生きてるのか、とかね。

田中： あはははは。

内田： 見つめ直すってことをあんまりされてないもんだからね。今は特にながむしゃらな時間だもんで。

田中： 走る時間ですもんね。

内田： こういうふうに顧みる時間を作るっていうことは、いいかもしれんね。まだまだ青年部の事は完成してないんだけどね。自分としてこういう時間をね、おもしろい時間だなんて。

田中： ふふふ。

内田： なかなか経験できる時間じゃないよね。この前のラジオもそうだけど。シナリオのないことについて「ああでもない、こうでもない」って。楽しい時間だった。

田中： ありがとうございます！ 私もおもしろかったです。

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』 という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」 を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< ace-support@samba.ocn.ne.jp >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト*ペディア 20 < 内田英治 氏 >

<http://p.booklog.jp/book/86907>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/86907>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/86907>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ